

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票					No.	13-009		
PDCA	事務事業名	バイオマス活用支援事業	部課等名	市民経済部 環境課	担当	青木		
					内線等	331		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち 節： 第2節 環境との共生 基本施策： 1. 地球・地域環境の保全 単位施策： (2) 地域環境保全 個別施策： ②生活型環境問題への対応						
	根拠法令等	半田市バイオマス産業都市構想						
	対象・目的	「半田市バイオマス産業都市構想（以下「構想」という。）」の将来像である、①廃棄物の再資源化による循環型社会の形成②新しい農業の振興と次世代を担う農業者の確保③畜産由来の臭気を低減し住みやすいまちを形成④バイオマス資源を活用した災害時の電力供給を実現する。						
	目的を達成するための手段・活動内容	構想の中心プロジェクトである、民間事業者が実施するバイオガス発電施設の整備に対し、国の補助制度を活用し、支援を行う。 また、構想を着実に実現するための4つの事業化プロジェクト（「畜産ふん尿等を利用したバイオガス発電プロジェクト」「排熱・排ガスを利用した植物工場プロジェクト」「消化液の液肥利用プロジェクト」「畜産ふん尿の臭気低減プロジェクト」）を連携して実施していくための推進体制を構築する。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位		
		事業者に対する補助金の交付（R2は見込み）	2,200	127,303	367,955	千円		
		バイオマス産業都市推進協議会への参加（負担金・旅費）	0	50	10	千円		
		事業費	2,200	127,353	367,965			
		人件費	—	1,553	3,086			
		総事業費	2,200	128,906	371,051			
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位		
	事業実施に係る市民1人あたりのコスト	18	1,075	3,118	円			
	成 果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位		
		バイオガス発電施設の整備に関して、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、工期の延長が必要となったが、国や県との調整、事業者に対する適切な指示等により、補助金の執行に関して支障をきたすことなく、適正な対応を行うことができた。また、施設の稼働に必要なバイオマス資源の収集運搬検討会議（民間事業者が主催）において、事業者の支援を行った。	実績値					
			目標値					
			実績値					
			目標値					
実績値								
目標値								
C 課題の整理		観点別評価	必要性	有効性		効率性		
	①市の関与の妥当性 妥当		④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減余地 ある				
	②市民ニーズ 高い		⑤成果向上の余地 ない	※手段の変更				
	③休廃止の影響 大きい		⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地 —				
	事業の評価・課題	B 構想の中心プロジェクトであるバイオガス発電施設の整備に関しては、国からの交付金を、愛知県及び本市を経由して、プロジェクトの進行を担う民間事業者に交付するよう、適正に事務を執行し、事業者の支援ができた。 令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の感染防止策として行った現場作業員の人数抑制による工期延長について、国や県、事業者との綿密な調整、協議により、翌年度への事業繰り越しが認められ、交付決定どおりの補助金が交付される見込みである。						
		A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	拡充推進 事業者に対して必要な支援を行い、バイオガス発電を推進する。現在、バイオガス発電施設の整備工事が進行しており、令和3年秋に稼働開始予定である。今後は、構想の中心プロジェクトである「バイオガス発電」と、他の3つのプロジェクトを連携して継続させていくために、市、県、学識経験者、関係事業者などで構成する推進委員会を設置して、進捗を管理する。				
			令和3年度の目標	成果指標	目標値	単位		
				バイオガス発電施設が計画通りに稼働できる	—			